

この人らを世のデバイスに！

～ 私だからこそ言える。

介護福祉士の卵達に期待していること ～

東京都立野津田高等学校

NPO法人 支援機器普及促進協会

理事長 高松 崇

Self-introduction

主な活動と経歴

●本年度

京都市教育委員会 総合育成支援課 ICT専門主事

京都府 特別支援教育京都府専門家チーム（宇治支援学校SSC）

NPO法人 支援機器普及促進協会 理事長

●昨年度以前

京都市 呉竹総合支援学校・東総合支援学校 特別非常勤講師

京都市 携帯電話市民インストラクター

京都市 ICT活用支援員（総合支援学校ICTコーディネーター）

京都市 総合育成支援員（発達障害児支援）

京都市 精神障害者授産施設 京都市朱雀工房 統括職業生活支援員

京都市 地域若者サポーター（引きこもり支援）

京都府教育委員会 社会教育委員

京都府高等技術専門校 在職者訓練インストラクター

中小企業基盤整備機構 経営改善アドバイザー

私も、通所生活介護施設に通う三男がおります

18番テトラソミー

140,000人に一人という非常に出生率の低い染色体異常（18番染色体が4本ある病気です）の我が子と同じ障害を持つ方々との情報交換の場になってほしいと思いつくりしました

18テトラソミーの子の成長

140,000人に一人という非常に出生率の低い染色体異常（18番染色体が4本ある病気です）の我が子と同じ障害を持つ方々との情報交換の場になってほしいと思いつくりしました

2014-12-27 13:54:33

テーマ：成長記録

12月7日にはお母さんと一緒に
SL北びわこ号（米原から木ノ本）にも乗ってきました
梅小路機関車館のSLとは違い、40分の自然の中を走ったそうです

プロフィール



プロフィール | なう | ピグの部屋

ニックネーム：menis18

性別：たかちゃん

自己紹介：

18番テトラソミーという遺伝子障害は非常に



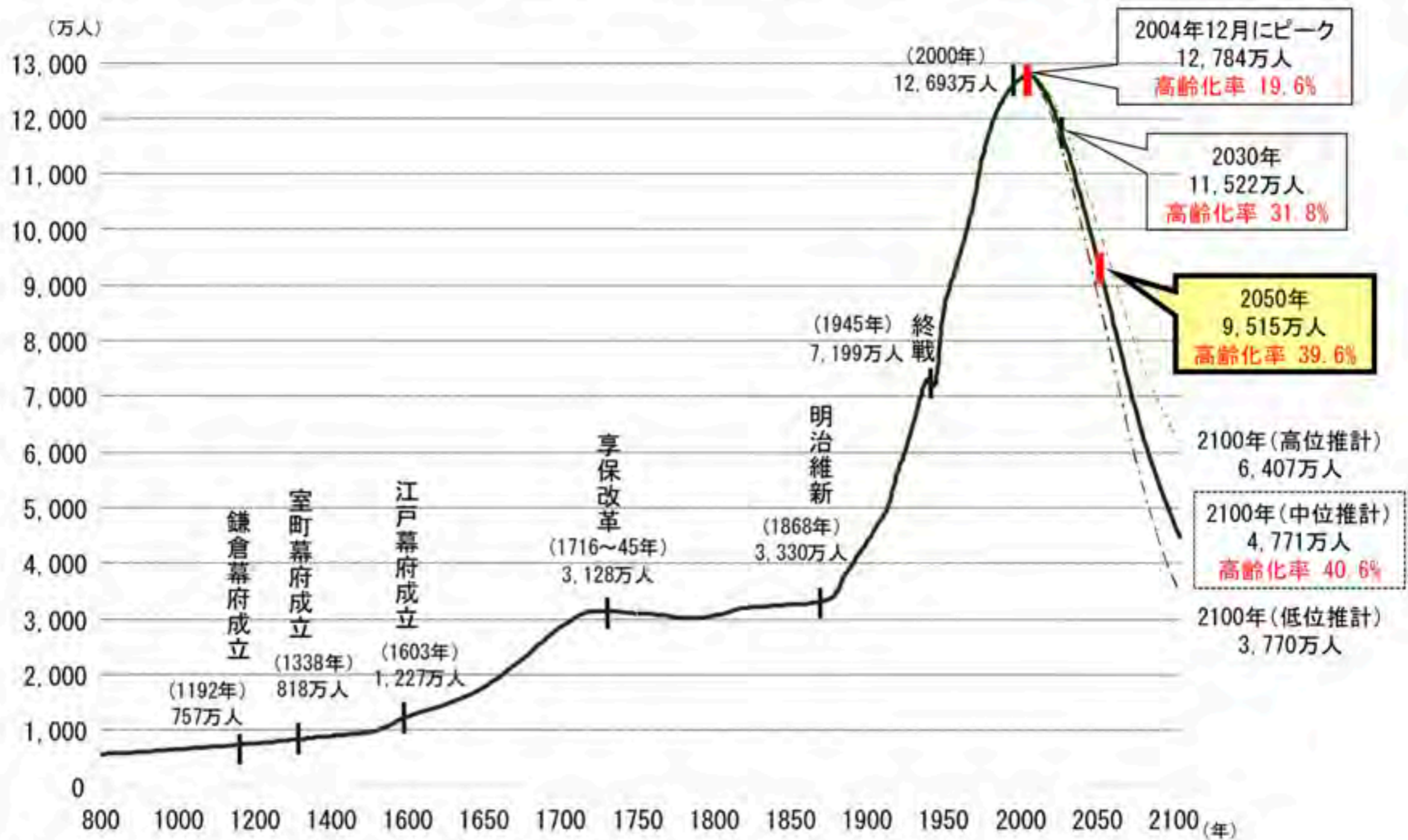


みなさんが後期高齢者
になっている時代

後期高齢者の割合は??%

我が国における総人口の長期的推移

○ 我が国の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻っていく。この変化は、千年単位でみても類を見ない、極めて急激な減少。



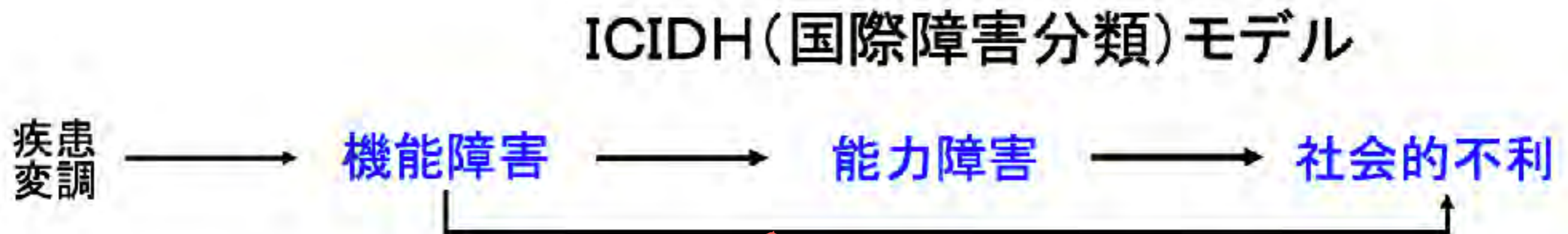
出典:「国土の長期展望」中間とりまとめ 概要(平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会)

Chapter 1

ICIDH → ICF

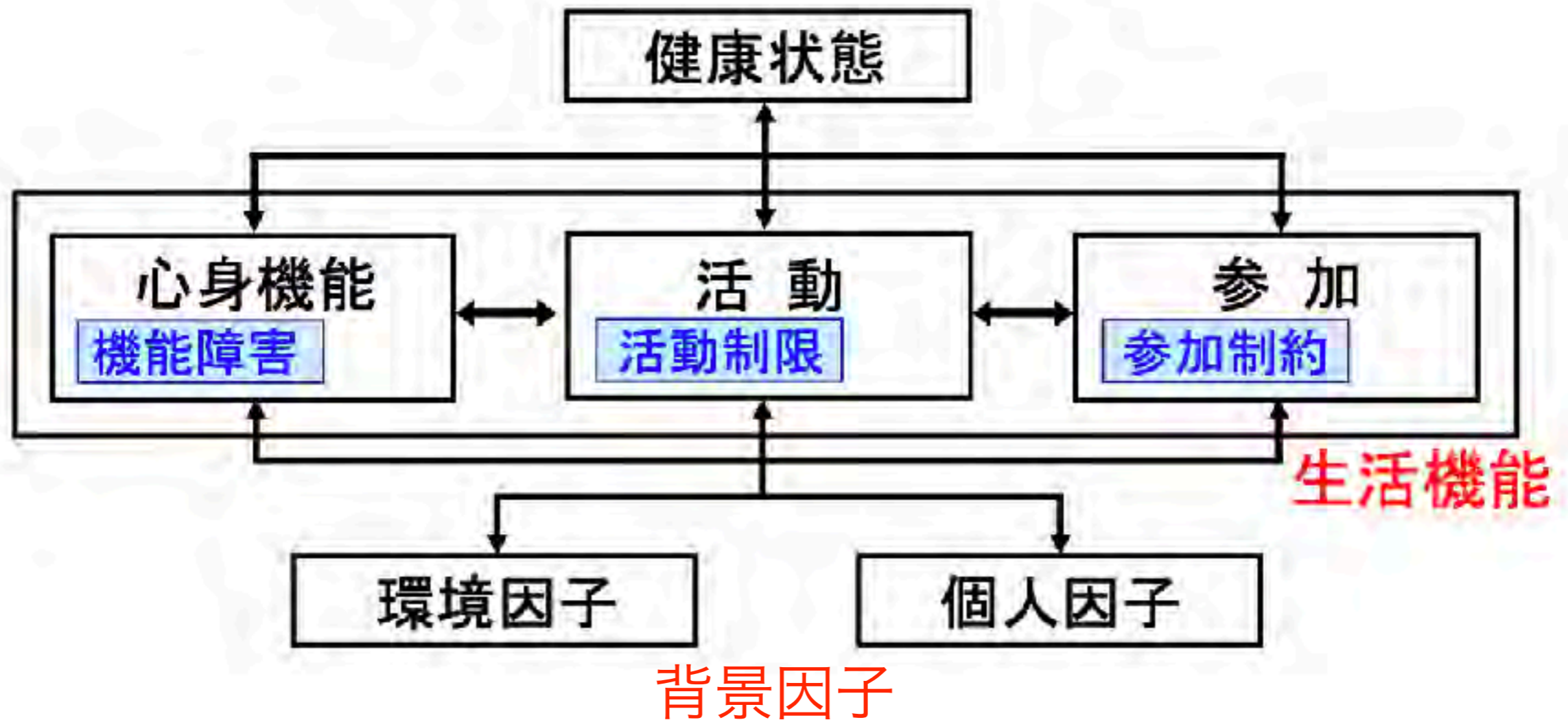
国際障害分類（ICIDH）（マイナス思考）

1980年



顔面のあざのような形態障害が、能力障害がないにもかかわらず、社会的不利を起こしうるといった場合

ICF（国際生活機能分類）モデル



「機能障害」レベルでの回復は十分でなくても、「能力障害」と「社会的不利」は解決できるということである

(1) 医学モデル：

障害を個人の問題としてとらえ、健康状態（病気、等）から直接的に生じるものであり、障害への対処は、治癒（一般医療）あるいは個人のよりよい適応と行動変容（リハビリテーション、等）を目標になされる。

「心身機能」（および「健康状態（病気など）」）を過大視し、それによって「活動」も「参加」も決まってしまうかのように考え、また環境の影響も一部しか考えない見方である。

(2) 社会モデル：

障害を個人の特性ではなく、主として社会によって作られた問題とみなす。社会的な「参加」と「環境因子」を過大視する傾向がある。

なお矢印の上下や左右という位置や向きには特に意味はない。

影響の仕方にはマイナスの影響もあればプラスの影響もある。たとえば、環境因子の例として、点字ブロックは目の不自由な人にとってはプラスの効果があっても、歩行困難のある人にはマイナスになることもある。

この影響の与え合いの内容・程度は一人ひとりの例で皆違うのであり、どの要素がどの要素にどう影響しているのかを具体的に捉えることが重要である。

以上は言い換えれば、モデルの「矢印が大事だ」ということである。

ただし、他の要素からの影響で全てが決まってしまうのではなく、各レベルには「相対的独立性」（参照：p3-8）があることも忘れてはならない。

Chapter 2

ADL → QOL

養護から、特別支援へ
ADL (日常生活動作)から、QOL (生活の質) へ

上から守る(養護) ADL



出来ないことを
手伝う



下から支える(支援) QOL



出来るように
支援する

ALS 気管切開

ビール🍺飲みたーい！！





両上肢麻痺

絵を描きたい！！

Apple Pencilの練習1 (iOSスイッチコントロール併用) 【Procreate】

でスニーカーを描く



ALS

みんなと話したい！！

失われた声で会話 音声合成 医療の分野へ



マズローの要求5段階



Chapter 3

inclusive society



文部科学省

障害者 × 生涯学習











Chapter 4

ICT (AT)

介護現場におけるICTの利用促進

厚生労働省からのお知らせ



ICT導入支援事業【地域医療介護総合確保基金（介護従業者確保分）】

目的・・・ICTを活用した介護サービス事業所の業務効率化を通じて、職員の負担軽減を図る。

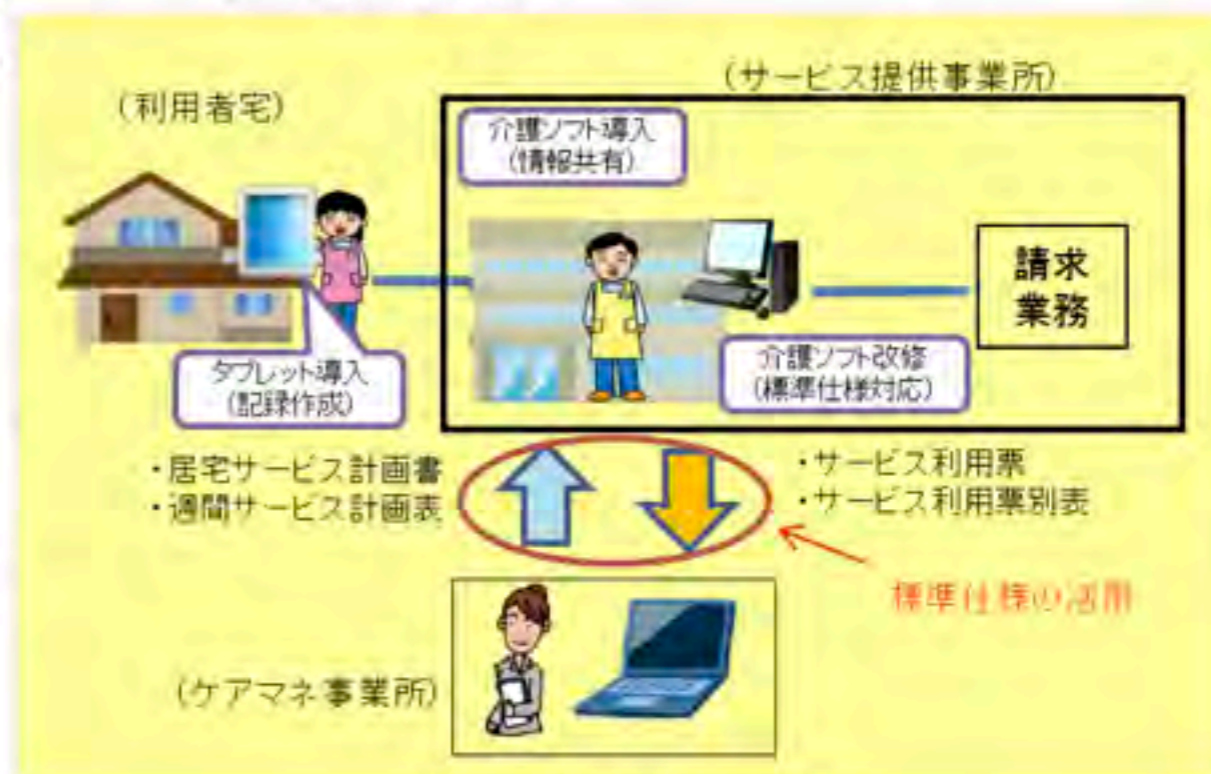
実施主体・・・都道府県

令和3年度予算案 地域医療介護総合確保基金 137.4億円の内数

補助要件

- 記録、情報共有、請求の各業務が転記不要（一気通貫）
- （居宅系サービス等）ケアマネ事業所とのデータ連携のために「ケアプラン連携標準仕様」を実装した介護ソフトである
- LIFEによる情報収集・フィードバックに協力
- 導入事業所による他事業所からの照会対応
- 導入計画の提出（導入する意義、期待される効果等）
- 以下の要件を満たす場合は補助率の拡充（導入計画等で確認）
 - 事業所間でケアプランのデータ連携で負担軽減を実現
 - LIFEの「CSV連携仕様」を実装した介護ソフトで実際にデータ登録を実施

年度	補助上限額	補助率	補助対象
元年度	30万円 (事業費60万円)	財源：基金 (国2/3、都道府県1/3) 補助率・・・1/2	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護ソフト ● タブレット端末 ● スマートフォン ● インカム ● クラウドサービス ● 他事業者からの照会経費等
2年度	当初	事業所規模（職員数）に応じて設定 ● 1～10人 50万円 ● 11～20人 80万円 ● 21～30人 100万円 ● 31人～ 130万円 ※都道府県が設定 事業者負担を入れることが条件	上記に加え <ul style="list-style-type: none"> ● Wi-Fi機器の購入設置 ● 業務効率化に資するバックオフィスソフト（勤怠管理、シフト管理等）
	1次補正	事業所規模（職員数）に応じて設定 ● 1～10人 100万円 ● 11～20人 160万円 ● 21～30人 200万円 ● 31人～ 260万円	
	3次補正	補助率 ①3/4以上（一定の要件を満たす場合） ②1/2以上（それ以外の場合） ※都道府県が設定 事業者負担を入れることが条件	



<例：訪問介護サービスの場合>

※令和2年度(当初予算)以降の拡充は令和5年度までの実施

ICT導入支援事業の実施状況(令和元年度～令和3年度)

- ICT導入支援事業の実施自治体数は、令和元年度**15県**、令和2年度**40都道府県**と増加し、令和3年度においては、**全ての都道府県**において実施が予定※されている。

- 助成事業所数(195事業所→**2,560事業所**)が大幅に増加

※ 実施予定の県及び地域医療確保総合確保基金以外の財源で実施する予定の県を含む。

令和元年度

(実施都道府県数) **15県**
(助成事業所数) **195事業所**

令和2年度

(実施都道府県数) **40都道府県**
(助成事業所数) **2,560事業所**

令和3年度

(実施都道府県数) **47都道府県**
(助成事業所数) **—事業所**

■ ・ ・ 未実施 ■ ・ ・ 実施あり



ICT導入支援事業導入効果報告の分析(令和元年度) 自由記述

成果

赤字...業務効率化
青字...質の向上

【事業所運営・支援の質に関すること】

- 事業所分析が充実した(サービス実態、実地指導用資料作成、収入や人数等の各種統計資料作成 等)
- 業務が効率化された(事務遂行のための事務所立ち寄りの減、予定管理の効率化 等)
- 勤務態勢が改善された(超過勤務の削減、動線の変更 等)
- 業務上のミスが減った(転記ミスの減少 等)
- 支援の質が上がった(家族への正確な情報提供 利用者支援に充てる時間の増 等)
- 職員の心理的負担が減った(ストレス軽減 等)

【記録に関すること】

- 記録が充実した(読みやすさ、誤字脱字の減少、内容の充実、管理しやすさ等、)
- 記録に要する時間が削減された。
- 文書量が削減された
- ケアプランが充実した(ケアマネジャーへの円滑な報告、各種計画・実績報告作成時間短縮、内容充実、作りやすさ向上等)

【情報連携・共有に関すること】

- 事業所内の情報共有が円滑になった(話し合い時間の増、円滑な申し送り、リアルタイムな情報共有 等)
- 事業所外との情報共有が円滑になった(ケアマネジャーとの連絡、家族との連絡 他事業所との連絡 等)

課題

【事業所運営・業務に関すること】

- 導入コストに課題がある(必要なPCの不足 等)
- 職場内のルール、業務フローに課題がある
- かえって時間や文書量の負担が増えた
- 事業所のセキュリティ体制に不安がある

【支援の質に関すること】

- 職員間・家族との会話や振り返りが不足した
- PCが得意でない方の入力内容が薄くなった

【職員のスキルに関すること】

- 介護ソフトに関する研修が出来ていない
- 職員のICTスキルが不十分

【機器・ソフトウェアに関すること】

- サービス内容と、機器やソフトの機能が合っていない
- 機器やソフトウェアの性能やサポート体制に不安がある
- 他システム等との連携が十分でない
- 外部との連携が不十分

【その他】

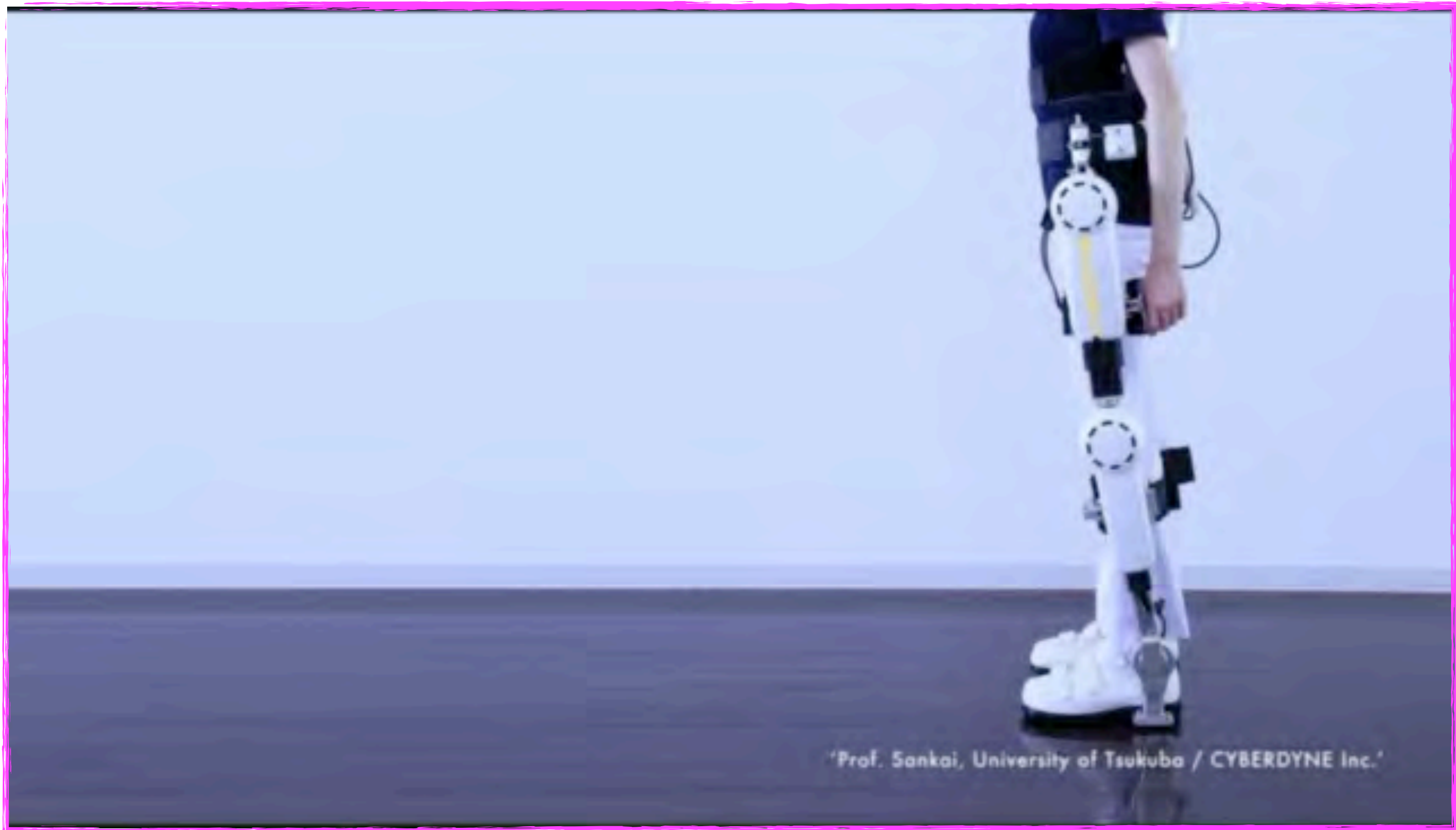
- 導入して間もないため、効果を実感できていない。

介護現場におけるICTの利用促進

厚生労働省からのお知らせ



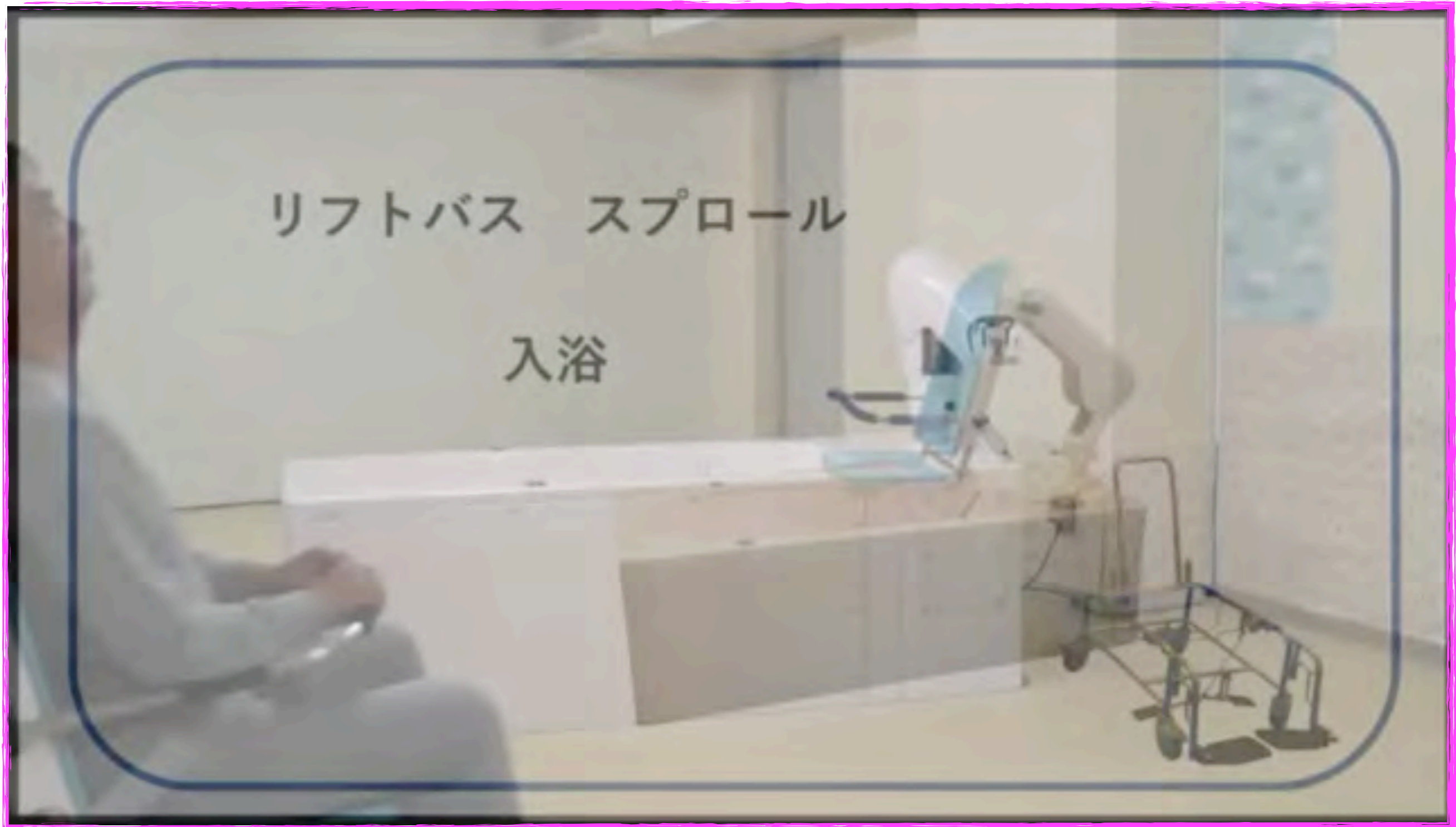
ロボケアサービスwith『HAL®』のご紹介



Obi Robot Donation by The Kirk Gibson Foundation for Parkinson's



リフト付きバス スプロール リフトを使用した入浴



[NEWS] 階段を登れる 次世代型電動車いす"Scewo"



2040年の介護ロボットと未来！人と先端技術の共生とは！？

介護ロボットと未来

Society5.0（ソサエティ5.0）未来の日本の姿

Society5.0。

それは、IoTやAIといった先端技術によって、
社会課題を解決していくスマート社会のこと。

私たちの暮らしは、


Society5.0 でどんなふうに変わっていくのでしょうか？

ちょっと先の日常を覗いてみましょう。

AirTag、登場 | ソファ | Apple



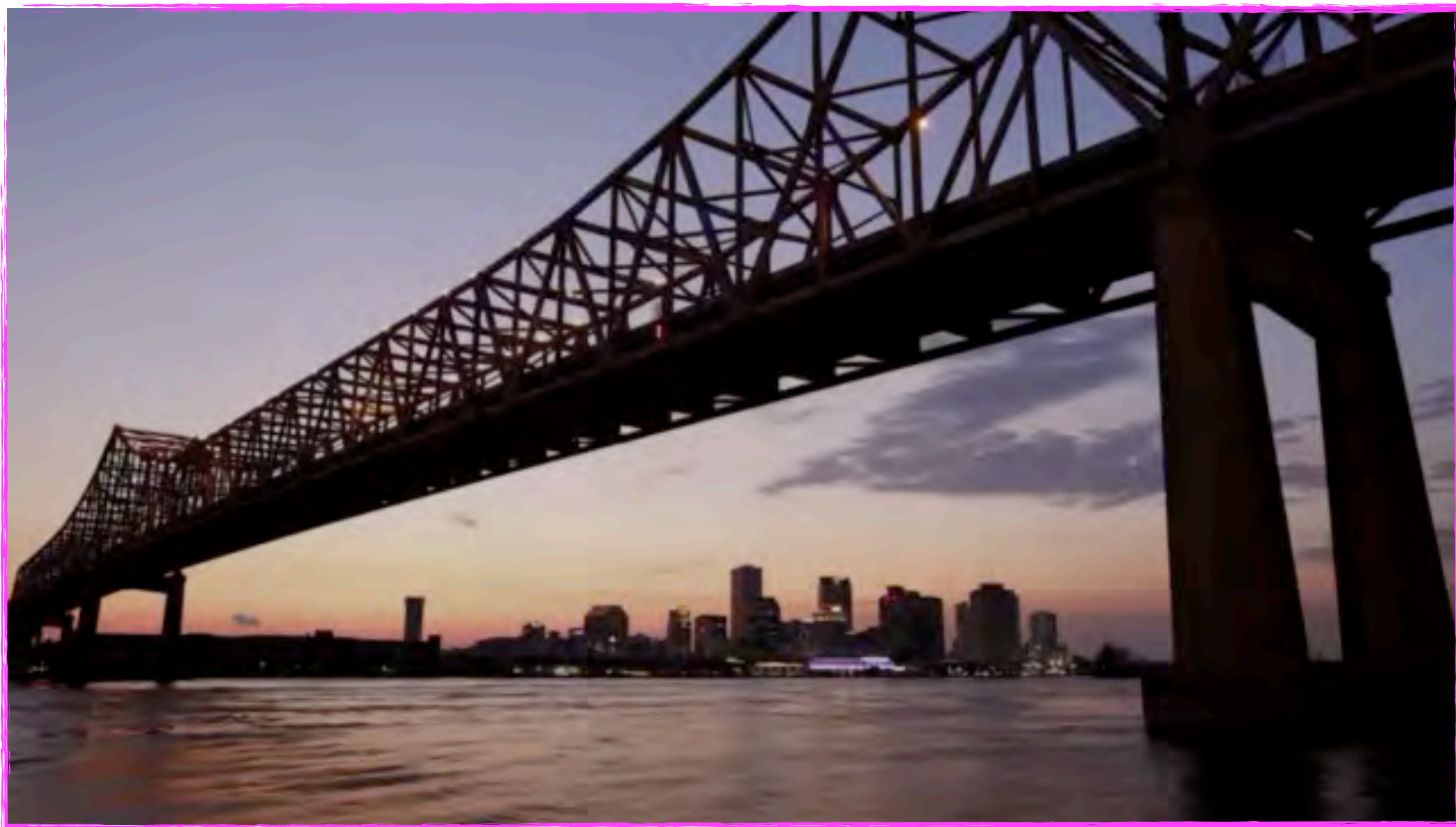
Apple Watch ヘルスケア



Apple Watch。
注意が必要な兆候を、
ユーザーが早期段階で
特定できるように支援。

数多くのパワフルなアプリケーションを搭載したApple Watchは、
健やかな毎日のための究極のデバイスです。新しい通知機能と心電図
アプリケーションによって、ユーザーの心臓の健康に関する重要な情報が
得られるようになりました。

Ochsnerでの慢性疾患の管理



重度障害者がロボットで接客する実験カフェ分身
「ロボットカフェ DAWN ver.β」 11月にOPEN!



eMotion Project





「VRを使った脳トレ」で、下半身不随の人が歩けるようになる日があるかもしれない



2016/08/25

稲垣正倫 (ライター)

いまVR（バーチャルリアリティ）技術は、医療分野においても目覚ましい研究成果をあげています。なんと下半身不随の患者が、VRをつかった「神経系のリハビリテーション」を続けることで再び歩けるようになるかもしれない、というのです。

Talkitt



iPad+TD Pilot(Tobii)



Eyedrivomatic for Hackaday Prize



Google Gesture



Google
Gesture

Say hello to Google Gesture

スマート家電コントローラ RS-WFIREX3 (新UI ver)



ラトック スマート家電コントローラは、

前川 裕美さん 「OrCamで人生が変わりました。」



Antennaのこれから - 富士通

髪の毛で音を感じる

新しいユーザインタフェース

A New Interface Device for Enabling Deaf People
to Feel Sounds Using Their Hair



まとめ

「この子らを世の光に」

「この子らはどんな重い障害をもっているけれども、だれと取り替えることもできない個性的な自己実現をしているものである。人間と生まれて、その人なりに人間となっていくのである。その自己実現こそが創造であり生産である。私たちの願いは、重症な障害をもったこの子たちも立派な生産者であるということ、認め合える社会をつくらうということである。『この子らに世の光を』あててやろうという哀れみの政策を求めているのではなく、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよ磨きをかけて輝かそうというのである。『この子らを世の光に』である。（「糸賀一雄著作集3」より引用）

デバイス

(読み) でばいす (英語表記) device

翻訳 | [device](#)

日本大百科全書(ニッポニカ)「デバイス」の解説

デバイス
でばいす
device

本来は道具・仕掛け・考案・くふう・方策・図案・意匠などを意味する英単語であるが、[コンピュータ](#)関連では、コンピュータを構成する電子機器やパーツ類、各種周辺機器など、特定の機能をもった[装置](#)の[総称](#)として用いられる。また、IC（集積回路）やトランジスタなどの電子部品をさす場合もある。



ATDS

Assistive Technology Dissemination Society

NPO法人支援機器普及促進協会

<http://npo-atds.org>

<https://www.facebook.com/takamatsu.takashi>